

— 赤ちゃん訪問について思うこと —

	嬉しかったこと	大変なこと・困ったこと
保健連絡員・ 保健連絡員 OB	<ul style="list-style-type: none"> ○赤ちゃんに会え、親御さんがいろいろな話をしてくださった。 ○地域で会ったときに覚えていてくれて、母から声をかけてもらえた。 ○地区の夏祭りの宣伝をしたら、地域のお祭りで再会し、「また遊びに来てください」と言ってもらえた。 ○近所で知っているお宅だったので訪問しやすかった。 ○連絡した当日に快く受け入れてもらえた。地域の情報をお話しできた。 ○地域で遊んでいる子どもとのちょっとしたやり取りが嬉しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○セールス等知らない人からの連絡を警戒してか電話に出ず、訪問しても玄関を開けない人が増えた。 ○電話してもなかなか出してもらえず、直接訪問へ行ったが対応が悪く嫌な印象を受けた。 ○在宅しているが、居留守を使われることがある。 ○車で出かけて居ない事が多いのか親子が外に出ていない。 ○お母さんが玄関先で話すだけで、赤ちゃんには会えないことも少なくない。 ○訪問後も見守りをしたいが、1回きりでは、なかなか保護者の顔を覚えていない。 ○母が電話に出ると思ったら夫が出て驚いた。 ○電話をかけたら電話番号の入手先について問われた。 ○親が近くに住んでいる人が多く、母からの相談がない。 ○専門的な事を聞かれて困った。 ○賃貸住宅に住む家族は、短期間の居住という意識のためか近所づきあいが少なく、連絡がとりにくいことが多い。 ○公園も危ないから、と遊ばない子が多い。
母	<ul style="list-style-type: none"> ○訪問して何かをされた訳ではないが、「近くに住んでいます。その辺をよく行き来しているので、声かけてね。」と言われて、すごく安心した。 ○訪問した人が専門職じゃない人がしていると分かって驚いたが、安心した。 ○子どもが小学生になって、地域の人と関わるようになって、赤ちゃん訪問を思い出した。 ○母子で公園にいたら、「こんにちは」と声をかけてもらい、保健連絡員さんと気づき嬉しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○待っていたが訪問に来て、お祝い品を渡してすぐに帰って行かれて悲しかった。
保健師	<ul style="list-style-type: none"> ○訪問後の報告から保健センターの支援につながった。 ○訪問を通して連絡員が地域づくりの必要性を考えてくださった。 ○訪問での嬉しかったことを報告してくださった。 ○赤ちゃん訪問を通して、地域の様子を教えてもらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○赤ちゃん訪問が始まり何年も経っているが、なかなか浸透していない。 ○出生数が多い地区で、連絡員が少ない地区は負担が大きい。 ○出生数や連絡員数、親子の姿も地区によってとても差がある。 ○外国人の場合は、日本語ができる家族や友人がいないと、やりとりしづらい。 ○通訳での外国籍の方が増えてきており、保健連絡員に依頼しにくい。
区長・ 民生・児童委員	<ul style="list-style-type: none"> ○H30年度の赤ちゃん訪問数を見て、自分の区の出生数と保健連絡員が訪問に行ってくれていることがわかり嬉しかった。 	